

# DX 今物語

24

さまざまな領域でDXが進んでいますが教育分野も例外ではありません。教育です。

「個人個人に最適化された学習ができる」「学習データを活用できる」といった分野におけるDXは「いつでもどこでも学習できる」

まず学校での教育DXを見ていきましょう。文部科学省は2019年に全国の小中学校の児童・生徒に23



◇えんどう きみたか NIT 研究所にて知能ロボット、製造業におけるICTサービスに関する研究開発に従事。その後、製造業向けクラウドサービスの開発を担当。現在は教育クラウドプラットフォームサービスビジネスに従事。

NTTアドバンステクノロジ  
DX&GXビジネス事業本部 DX&GX  
ソリューションビジネスユニット

主幹技師 遠藤 公誉

年度までに一人一台の端末を配布する「GIGAスクール構想」を打ち出しましたが、新型コロナウイルス感染症の拡大を受けてこの計画を前倒しし20年度末までの1年あまりで一人一台の端末の配布を完了しました。これにより学校での教育DXが本格的に始まり、現在学校では配布された端末を活用してオンライン学習、個別学習など新しい学習を進めています。例えば英語のスピーキング学習は先生との1対1の会話が必要なため授業中に生徒一人あたりが英語を話せる時間が少ないという課題がありました。しかしAI英語音声認識機能を搭載したスピーキング学習アプリを活用したところ生徒一人あたりの英語を話す時間を大幅に増やすことができ、これも個別最適な学習の例と言えます。

次に企業の教育DXを見

## 教育分野にも広がるDX

てみましょう。企業における社員教育に関して最近「リスキング」という言葉をよく耳にします。このリスキングは22年の新語・流行語大賞にノミネートされ、また岸田首相の所信表明演説でも触れられたように現在注目されているキーワードで、技術革新や新しいビジネスに対応するために新しい知識やスキルを習得することです。

このリスキングはDXと一緒に語られることが多く、DX化を進めることができるスキルの習得が重要な課題とされています。

一方でこのリスキングをはじめとするスキルの習得自体をDXにより効果的に行うことも進められています。

これまではスキル獲得のための研修といえば教材による自習や座学形式による学習が主でした。しかしIT技術を活用したeラーニ

ングシステムやデジタルドリルシステムにより社員はいつでもどこでもすきま時間で学習でき、また企業の人材育成担当者も学習データから各社員のスキルの習得状況を把握することができます。さらに金融業界では今後は顧客への金融教育も重要になってくると考えられます。お客様への金融教育をeラーニングシステムやデジタルドリルシステムにより提供し、お客様の学習データを活用して商品を提案するということが今後は重要になってくるでしょう。

当社のデジタルドリルプラットフォーム「ノウン」ではファイナンシャルプランナーをはじめ簿記、税理士など多くの資格試験用デジタルドリルをご提供し、いつでもどこでもすきま時間で学習できると好評いただいています。ぜひ活用ください。

(下)